

^{シヤカ}釈迦の弟子アーナンダが^{ガキ}餓鬼より余命いくばくも無いことを告げられました。彼は恐怖のあまり釈迦に救いを仰ぎ、その教えに従って大衆に飲食を施し、その^{クドク}功德によって長寿を得ることができました。これが^{セガキエ}施餓鬼会の起こりとされています。

法要における祈りの気持や、^{セガキ}供養心によるお施餓鬼は、寿命を延ばす功德があるとされ、それにはまず餓えた人達に食物を施し、他の生命を先に救うことこそ最善とされています。釈迦の国インドでは、今日でも多くの餓えた人々がいて、昔のいわれとしてではなく、現実の施食供養として行われています。

私達は己の生命を築く為に、他の多くの生命を犠牲にしています。他の生命を大切にし、反省と感謝の気持ちを持ち、常に過去と現在と未来の生命あるものに対し、供養心を持ちたいものであります。